

ほっとサロン虹

通信

2026.5.15

ほっとサロン虹は、がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど
気になること、相談したいことなど、お話ができる場です。

テーマ：「医師とのコミュニケーションについて考えてみよう」

講師：岩国医療センター がん看護専門看護師 上田 佳奈

今月のテーマは「医師とのコミュニケーションについて考えてみよう」で、当院がん看護専門看護師の上田佳奈看護師がお話しました。

記：医師事務作業補助者
河本 百合子

ひと昔前は医師からの話は一方通行だったのに対し、今は「大事なことを決めるとき、患者さんやご家族の事情や考え・気持ちを理解しようとし、本人側に聴こう」と言われています。大切にしたいことは人によって異なり、その人の意向や望みを他人が推測するのは難しいからです。

治療を登山に例えると、医療者は山全体が見えているのに対し患者さんは森の中にいて目の前の木々しか見えていないような状態です。そのギャップを埋めるためには、医師とのコミュニケーションをとることが大切です。そのためには「患者力」、自分の病気を医療者任せにせず、自分事として受け止め、いろいろな知識を習得したり、医療者と十分なコミュニケーションを通じ信頼関係を築き、人生を前向きに生きようとする患者さんの姿勢を身に着けましょう。



患者力に必要なスキルは、

1. コミュニケーションのスキル

(医師の説明をメモしたり、質問を予め準備して質問上手になるスキル)



2. 情報を吟味するスキル

(信頼性が低い情報にふりまわされず、がん情報サービスなどの信頼できる情報源を選択するスキル)

3. 想いを伝え自己主張できるスキル

の3つです。想いを伝え自己主張できるスキルとして、抗がん剤治療後の体調を医師に伝える場面想定して自分ならどう伝えるか、みんなで練習してみました。大事なポイントを簡潔にわかり易く伝えることの難しさを体験できました。

その他の医師と話をする際のコミュニケーション技術として、適度な自己主張や心配事や感情を伝える、メモを取る、治療日誌を活用する、話す内容の優先順位をつけ2、3個に絞る、パンフレットを活用する、家族や友人に同席してもらう、他の医療者に介入してもらうなど様々な方法の紹介がありました。また、がん相談支援センターで研修を受けた相談員に相談することもできますし、がんについて専門的な資格を持った専門看護師、認定看護師が医師との間の橋渡し役をすることもできます。

みなさんも患者力に必要なスキルを身につけ、ご自身が大切にしていること、ご自身の考えなどを医療者に伝えてみませんか。